

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 7 週 (2 月 12 日～2 月 18 日)

今週のコメント

～インフルエンザ～ 手洗い、咳エチケットが重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少」

第 7 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比 3.6%減の 1,553 例であった。小児科定点疾患、眼科定点疾患の定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、突発性発しん、流行性角結膜炎の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.6、1.7、0.5、0.4、0.3 である。

感染性胃腸炎は前週比 4%減の 903 例で、南河内 7.5、中河内 6.2、泉州 5.7、大阪市北部 5.1 の順である。

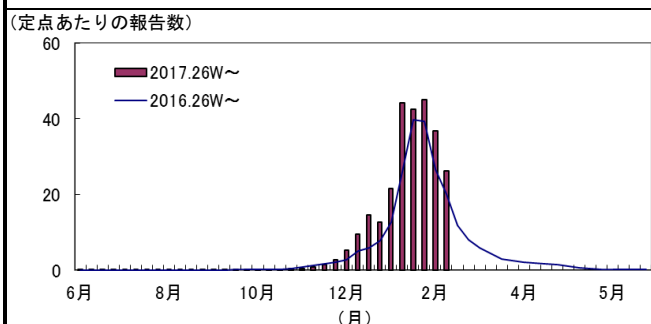
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 10%減の 334 例で、南河内 3.4、大阪市南部 2.8、大阪市西部 1.9、豊能・泉州 1.8 であった。

RS ウイルス感染症は 1%増の 100 例で、大阪市北部 1.6、南河内 1.1 である。

流行性角結膜炎は 27%増の 14 例であった。

インフルエンザは 29%減の 7,951 例で、定点あたり報告数は 26.2 である。大阪市西部 39.3、南河内 37.5、大阪市北部 35.2 となり、その他のブロックは警報レベル開始基準値の 30.0 を下回った。

インフルエンザ



感染性胃腸炎

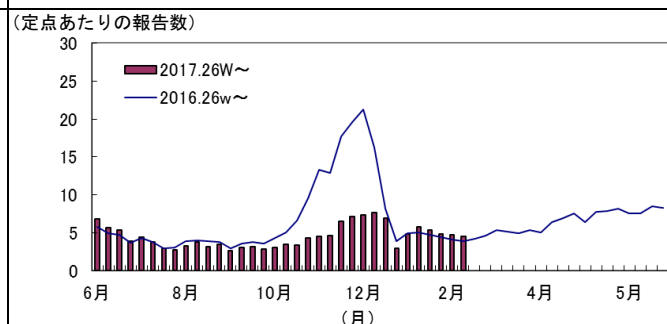


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 7 週 2 月 12 日-2 月 18 日)

第 7 週 の順位	第 6 週 の順位	感染症	2018 年 第 7 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 7 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 7 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.6	4%減	3.9	10 歳-14 歳_13%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.7	10%減	1.9	6 歳_15%
3	3	RS ウイルス感染症	0.5	1%増	0.5	1 歳未満_46%
4	4	突発性発しん	0.4	34%増	0.4	1 歳_53%
5	5	流行性角結膜炎	0.3	27%増	0.2	20 歳以上_64%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ 定点報告疾患)	26.2	29%減	20.2	20 歳以上_25%

第7週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2017年の梅毒感染者数は、800例を超えました

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の感染者は、2010年より増加傾向にある。大阪府における2017年の感染者数は、800例を超え、前年比1.4倍を上回った。感染症法が施行された1999年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

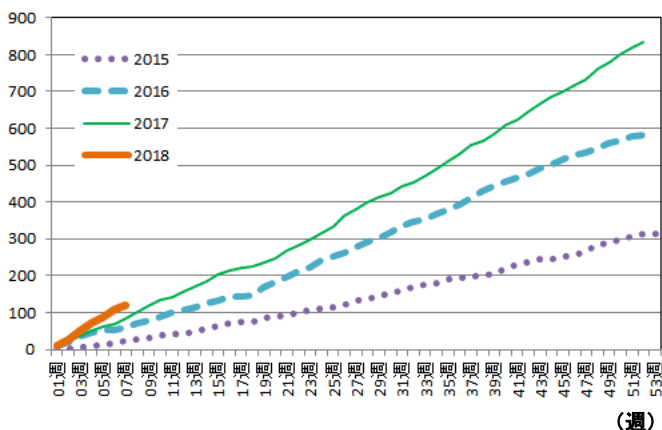


表2. 大阪府全数報告数 (2018(平成30)年 第7週 2月12日-2月18日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3類感染症	細菌性赤痢 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 3名) 腸チフス 1名 (泉州ブロック 1名、府内累計報告数 1名)
4類感染症	報告はありません
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (南河内ブロック 1名、府内累積報告数 17名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 47名) 梅毒 13名 (豊能ブロック 1名、北河内ブロック 1名、中河内ブロック 2名、堺市 1名、大阪市 8名、府内累積報告数 121名) 百日咳 1名 (北河内ブロック 1名、府内累積報告数 25名)
結核 (2017年12月分)	結核 新登録患者数 : 172名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 71名) (府内累積報告数 1,910名、内 肺・喀痰塗抹陽性 790名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2018年2月20日 集計分)